

「魅力ある学校づくり × 持続可能な島づくり（海士町）」

課題（状況）

- ・少子化により島唯一の隠岐島前高校は入学者数が28人（H20）に激減、廃校の危機に瀕していた
- ・学校の存続は地域の存続と直結する問題 – 教育改革と未来を担う人づくりを躍進させるチャンスと捉え「隠岐島前高校の魅力化と永遠の会立上げ」

目標（数値）

- 「教育」や「学校」をテコにした持続可能なまちづくり
- ・魅力ある学校づくりとこれを通した子どもと若い家族の教育での移住
- ・地域起業家的人財の育成
- ・地域の人々の教育への参加（智の循環）

具体的取組

- ①・ビジョン作成の「魅力化の会」の設置（島前三町村の首長、議長、教育長、校長、PTA会長などで構成、徹底した議論）
- ・新たな事業や産業を創る人材の育成を目指す総合学習や独自カリキュラムの活用
- ・学校連携型の公営塾「隠岐国学習センター」を創設、学校・塾が連携して『教育』を実践
- ・全国から生徒を募集、「島留学」制度も新設
- ③寮の整備費、留学者の里帰り支援、魅力化スタッフの人件費など独自施策は町単独
- ⑤隠岐島前高等学校魅力化推進協議会（魅力化の会の下の実働組織）
- ⑥・危機意識の共有と改革の推進母体設立
- ・教育人財のスカウト、活躍を後押しする組織
- ・役割分担と多様な『協働』/逆転の発想

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」により、専門教育等高校の機能維持が困難

規制・環境変化

町で資金手当て、島前高校内に魅力化スタッフ4名を確保
後に平成25年離島振興法の改正に伴い標準化法改正が実現

解決

海士町プロジェクト

- ①プログラム（行動）
- ②スケジュール
- ③予算
- ④専門人材
- ⑤推進・運用組織
- ⑥成功要件

地域資源
人材

支援政策
協力者

産学連携
技術

知事、教育委員長
等の県教育トップ

公設塾など
新たな組織

- ・島前高校魅力化推進協議会 – 三町村の首長等、議会、民間、住民
- ・岩本悠氏
- ・島前高校に配属の社会教育主事

結果（数値）

- 自主性のある取組による多様な進路の実現
- 多様な島外留学生を含めた生徒数の増加
- 島外からの移住者の増
- 高齢者等の活性化
- 地域および地域産業の活性化への貢献

地域の変化

- ・地元の小・中学生、保護者、住民の教育への参加機会の増加
- ・県等による離島・中山間地での同事業実施への胎動

残る課題

- ・隠岐国学習センターの自立
- ・地元の小中学生の学びに対する意欲や事業に対する興味の醸成

次の行動

- ・学習センター・カリキュラムのICTによる活用など収益事業化の促進
- ・中学生向け社会教育の導入